



2026年5月21日

各位

会社名 モ イ 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 赤松 洋介
(コード番号：5031 東証グロース)
問合せ先 取締役経営管理本部長 入山 高光
(TEL：03-3527-1471)

SBI ホールディングス株式会社との資本業務提携及び 第三者割当増資による新株発行に関する説明会における質疑応答

日頃より、当社へご関心をお持ちいただきありがとうございます。2026年5月19日（火）に開示しております「SBI ホールディングス株式会社との資本業務提携、第三者割当増資による新株式の発行、株式の売出し、並びに支配株主、主要株主及びその他の関係会社の異動に関するお知らせ」に関連して、2026年5月20日（水）にオンライン説明会を行いました。その際に投資家の皆さまからいただきましたご質問とその回答をまとめましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

なお、本開示は投資家の皆さまへの情報発信の強化とフェア・ディスクロージャーを目的として開示するものです。ご質問とその回答については、それらの内容を明確化することを目的として、一部内容・表現を加筆・修正しておりますことをご了承ください。

Q1. 今回の提携が実際の業績に貢献する時期と、具体的な数値目標について教えてほしい。

A1. 本提携は中長期的な企業価値向上を目指すものであるため、現時点での具体的な数値目標の開示は差し控えさせていただきます。ただし、調達資金約9億円は2026年8月からの3年間で計画的に活用し、状況に応じて前倒しでの実行も視野に入れております。特にM&A等に割り当てる約3.1億円は機動的な待機資金とし、SBIグループとのシナジーを活かして早期のトップライン（売上）拡大を目指します。同時に、AI基盤やIP創出への投資を通じて次世代プラットフォームへの移行を加速させ、中長期的な収益基盤の確立を図ります。

Q2. 以前に発表された株式会社STPRとの提携は、今後どうなるのか。

A2. 株式会社STPRとは、現在も良好な提携関係にあり、今後も、当社サービス上において相互にメリットのある事業展開を引き続き推進してまいります。今回のSBIグループとの「ネオメディア生態系」における連携は、これまでの取り組みに加えて新たな事業成長の柱を追加するものであり、既存の提携パートナーと並行して当社サービス全体を盛り上げていく方針です。

Q3. 既存の現預金（内部留保）も、今回の提携に合わせて活用していく方針か。

A3. 当社は手元資金・純資産ともに十分な水準にあり、今回の調達資金以外にも高い投資余力を有しています。今回調達した資金は、主に中長期的な持続的成長に向けた投資（M&A、AI基盤開発、新規IP創出など）に充当しますが、既存の保有資金につきましても、現在のベースとなる基盤事業の維持・強化、及びオーガニックな成長投資などに充ててまいります。当社は、手元資金の厚さを不確実な環境下におけるポジティブな強みと捉えており、今後も企業価値向上及び株主の皆さまへの貢献に向けて最適なタイミングで資金を活用していく方針です。

以上